

## 平成20年10月の地震活動及び火山活動について

### [地震活動]

震度5弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はありませんでした。

全国で震度1以上を観測した地震の回数は133回、日本及びその周辺におけるM4.0以上の地震の回数は70回でした。

国土地理院のGPS観測結果では、全国の地殻変動について特に目立った変動は見られません。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また、世界の主な地震は別紙2のとおりです。

### [火山活動]

口永良部島では、GPSによる地殻変動観測で、新岳火口浅部の膨張を示す変化が続くなど、さらに火山活動が高まったと判断し、27日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

雌阿寒岳では、火山性地震の発生回数が減少したことなどから、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性が低くなったと判断し、17日に噴火予報を発表し、火口周辺警報（火口周辺危険）を解除しました。

霧島山（新燃岳）では、火山性地震の発生回数が減少したことなどから、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性が低くなったと判断し、29日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引き下げました。

浅間山では、火山性地震がやや多いことなどから、依然として火山活動が高まった状態が続いており、火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しています。

桜島では、南岳山頂火口で3日に噴火が1回発生しました。昭和火口では、ごく小規模な噴火が時々発生する程度でした。桜島では、火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しています。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いており、火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しています。

諏訪之瀬島では、小規模な噴火が時々発生しました。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

日本の主な火山活動の概況は別紙3のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙4のとおりです。

注1：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注2：国土地理院のGPSによる地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成20年9月～10月の地殻変動について」を参照願います。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2008/goudou1107.html>

注3：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注4：地震活動及び火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)平成20年10月号(平成20年11月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注5：平成20年11月の地震活動及び火山活動については、平成20年12月5日に発表の予定です。